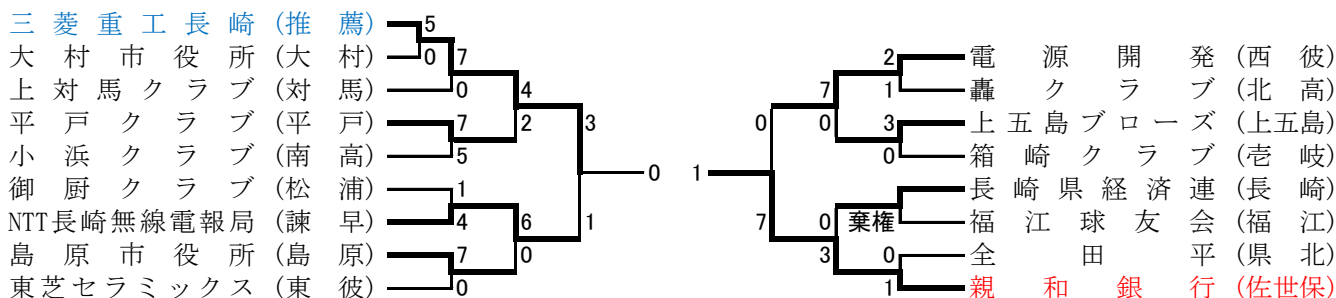


9年ぶり三度目の重工との決勝対決で親和が勝ち越し

第35回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和60年11月 8日(金)～10日(日)
会場： A・大橋球場 B・三菱球場



第35回県軟式野球選手権大会は11月8日午前8時の開会式から始まった。入場行進のあと国旗・大会旗などを掲揚して開会宣言。優勝旗、準優勝旗が返還され、淵上慎太郎長崎新聞社常務が主催者代表あいさつ。三菱重工長崎の川上邦英主将が選手宣誓を行なった。またこの年の西日本1部大会で優勝した諫早クラブと、鳥取国体で準優勝の親和銀行に対して県軟式野球連盟から特別表彰があった。試合は午前9時から大橋球場で三菱重工長崎―大村市役所戦を皮切りに5試合。三菱球場で3試合の計8試合を行ない8強が決まった。県経済連は福江球友会が出場停止処分を受けているため初出場で不戦勝となった。

(昭和59年10月27日付けの長崎新聞より抜粋)

三菱、着実に加点 大村打線わずか2安打

【一回戦】◇大橋◇1時間31分 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	010 100 3	5	1	3	0	1	1	7	0
大村市役所	000 000 0	0	7	3	0	0	3	5	0

【二】田中、本多 峰、牟田

【評】二回に相手内野の連失で勞せずして先制点をあげた三菱が四回には田中、本多の下位打者が長打して加点。七回は前田の三盗が捕手悪送球を誘い、代打・峰のタイムリー二塁打などもあって3点を加えとどめを刺した。



大村は左腕の有田から放った安打は2本で勝ち目は薄かった。

先取点！ 2回表三菱二死二塁、有田の二ゴロが敵失となる間に二走の田中が一気にホームに駆け込み先取点を挙げる

【三菱】打安点

⑧ 前田	4	2	0
④ 桜木	3	1	0
⑨3 高岡	2	0	0
H3 奥藪	0	0	0
⑤ 川上	4	0	0
③ 宇都	2	0	0
H9 上都	2	1	0
⑦ 井上	2	0	0
H7 峰	1	1	2
② 田中	4	1	0
① 有田	3	1	0
⑥ 本多	3	2	1
30 9 3			

【大村】打安点

⑧ 西村	1	0	0
⑥ 浦	3	0	0
① 黒岩	3	0	0
② 高浜	3	0	0
③ 久保	2	0	0
③ 池田	1	0	0
⑨4 牟田	3	1	0
④ 坂野	1	0	0
9 小川	1	0	0
H 安達	1	0	0
⑦ 松尾	1	0	0
H 森	1	0	0
⑤ 横田	2	1	0
23 2 0			

【上対馬】打安点

⑤1 扇寿	2	1	0
⑨ 武末	3	0	0
④ 扇秀	2	0	0
③ 大浦	2	0	0
3 比田	0	0	0
② 武末	2	0	0
⑧ 坂口	2	0	0
⑦ 木寺	1	0	0
①5 長友	2	0	0
⑥ 山崎	2	0	0
18 1 0			

上対馬 5回に崩れる

【二回戦】◇大橋◇1時間30分 振球犠盗失残併

上対馬クラブ	000 000	0	4	2	0	2	2	2	1
三菱重工長崎	100 042x	7	2	9	1	0	0	10	0

(6回コールド)

【評】前半の緊迫したゲームが一転、後半相手投手の乱調に乗じて6点を奪った三菱重工長崎があっさりコールド勝ちを決めた。四回までは三菱・小林、上対馬・長友の投手戦が展開されたが、五回に長友が2連打されて突然崩れ4と四球で4点を奪われ万事休す。上対馬クラブは今大会が初出場。1安打では打つ手がなかった。

【三菱】打安点

⑧ 前田	2	0	1
④ 桜木	2	0	0
⑨ 高岡	2	1	0
H 上内	1	1	0
⑤ 川上	4	1	0
③ 宇都	1	1	1
H 奥藪	1	1	2
⑦ 井上	2	0	1
② 田中	3	3	1
① 小林	3	0	0
⑥ 本多	1	0	1
22 8 7			

延長で平戸逆転 小浜の長打攻勢及ばず

【二回戦】◇大橋◇ 1時間53分 振球犠盗失残併

平戸クラブ	200 030 002	7	4	9	3	1	1	6	2
小浜クラブ	041 000 000	5	2	6	0	2	2	6	2

(延長8、9回は一死満塁制)

【評】延長九回二死満塁から4番増本の右越え二塁打で2点を勝ち越した平戸がその裏の小浜の攻撃をゼロに抑えて逃げ切った。

前半、小浜の長打攻勢で2-5とリードされた平戸は五回に相手投手の乱調につけ込み2安打2四死球で一挙3点を返して同点。四回以降立ち直ったエースの井手口が小浜打線を散発2安打に抑え反撃を断った。

小浜クラブは南高地区常連の有明町クラブを押しつけて初出場だった。

【平戸】打安点

⑦近藤	2	1	1
⑥山下	1	0	0
③古川	1	1	3
⑨増本	3	0	1
④正木	4	0	0
⑤森田	2	0	0
⑧宮田	2	1	0
②作元	3	0	0
①井手口	2	0	0

20 3 5

【三】古川、田中

【二】佐藤

【小浜】打安点

⑧佐藤	4	1	2
⑥田中	4	1	2
⑨入江	3	0	0
③山口	2	1	0
⑦原田	4	1	0
⑤関剛	3	1	0
②進藤	1	1	0
④関光	3	0	0
①山下	2	0	0

26 6 4

長崎無線局が御厨クを下す

【二回戦】◇大橋◇ 1時間16分 振球犠盗失残併

N T T 長崎無線局	102 001 0	4	2	3	3	4	1	3	0
御厨クラブ	100 000 0	1	2	1	0	0	1	4	0

【三】岩井、萩尾

【二】萩尾

【評】チャンスを確実にモノにした長崎無線局がエース大石の好投で御厨クラブを最小得点に抑え三回戦に勝ち名乗りをあげた。

1-1で同点の三回、無線局は一死後に四球の田村が敵失などで三進し岩永の左前打で勝ち越したあと続く岩井が中堅の頭をワンバウンドで越える三塁打を放ち2点差とした。

御厨クは初出場の55年から3年連続3連敗。3年ぶりの登場だった。

【無線局】打安点

⑧田村	2	0	0
⑤永江	2	0	0
⑨岩永	3	1	1
④岩井	2	2	1
①大石	2	0	0
②富高	3	1	1
③池田	2	0	0
⑥四方	3	0	0
⑦西村	2	0	0
H神野	1	0	0
7折元	0	0	0

22 4 3

【御厨】打安点

⑦浜本	3	0	0
⑨萩尾	3	3	0
④古賀	3	0	0
⑧1中野	3	0	0
②北川	3	0	0
③松島	2	1	0
①8田中	3	1	0
⑤川上	3	0	0
⑥近藤	3	0	0

26 5 0

ソツなし島原市役所 東芝、好機に不発10残塁

【二回戦】◇大橋◇ 1時間12分 振球犠盗失残併

東芝セラミックス	000 000	0	1	4	0	2	3	10	0
島原市役所	200 401x	7	1	2	2	4	1	5	1

(6回コールド)

【評】島原市役所の一方向的な試合だった。初回3安打、四回に4安打と集中打で先取点と、中盤でも一挙4点を奪う理想的な攻め。六回には二死二塁で森本が右翼線に二塁打を放ちコールド勝ちした。

東芝セラミックスは5年ぶり5回目の出場だったが、6安打を放ちながら10残塁と雑な攻撃。四、五回の満塁の好機に得点できずに、ここ3大回は初戦敗退が続き、本大会での通算は2勝5敗。

【東芝】打安点

⑦藤尾	3	1	0
H7畑中	1	0	0
⑧池田	3	2	0
⑥林	3	0	0
④上田	2	0	0
③山口	2	0	0
①鍛冶	3	1	0
⑨高島	3	1	0
⑤通	2	0	0
②謝名堂	2	1	0

24 6 0

【三】安永
【二】鋏取2
森本、池田

【島原】打安点

⑦鋏取	4	2	1
⑥5森本	4	3	2
①6北田	3	2	0
③成瀬	2	0	0
H3陶山	1	0	0
⑤1吉田	2	0	1
⑨松本	3	1	0
④安永	3	1	1
②兼元	2	0	0
⑧島田	1	0	0

25 9 5

電源開発 轟クを振り切る

【二回戦】◇三菱◇ 1時間16分 振球犠盗失残併

轟クラブ	000 000 1	1	6	5	0	0	1	5	0
電源開発	000 200 X	2	2	1	0	2	0	5	0

【評】打力で勝る電源開発が轟クラブの反撃を1点に抑え2-1で逃げ切り、4年ぶり3回目の出場で初勝利を挙げた。

0-0の均衡を破ったのは電源開発。四回の二死二塁から敵失でまず1点。梅田と広兼の連打で2点目を挙げ流れをつかんだ。

轟打線は電源開発エースの栗原の前に沈黙。2点リードされて後のない七回に3連続四球で1点返すのがやっとで、昨年の高松宮杯全日本1部準優勝で今季A級昇格チームとしては元気なし。

【轟】打安点

⑤谷端	2	0	0
⑧中山	3	0	0
④山口辰	2	1	0
⑥道副	3	0	0
③前田	3	0	0
②芦塚	2	0	0
H山口玉	0	0	0
R里山	0	0	0
⑨津田	2	1	0
①伊東	2	0	1
⑦浜崎	3	0	0

22 2 2

【電源】打安点

⑥村田	3	2	0
⑤坂口	2	0	0
①栗原	3	0	0
②梶岡	3	0	0
⑨梅野	3	1	1
⑧梅田	3	1	0
③広兼	3	1	1
⑦金氏	2	0	0
④井坂	2	0	0
4松村	0	0	0

24 5 2

箱崎、主軸打者の併殺打響く 離島対決 上五島が完封

【二回戦】◇三菱◇ 1時間16分 振球犠盗失残併

上五島ブローズ	100 001 1	3	2	1	0	1	0	5	1
箱崎クラブ	000 000 0	0	2	3	0	0	2	5	0

【本】川淵

【二】川上

【評】初回に五番浜崎の適時打で先制した上五島は、六回に川淵志の本塁打で加点。七回には敵失で3点目を挙げダメ押しした。

箱崎クラブも初回連続四球で絶好の先制機を迎えたが主軸打者が併殺打などに倒れ無得点。六回にも走者三塁としたが後続なく封じられ、2回目の出場も昨年の三菱重工戦に続きゼロ行進中。

【上五島】打安点

⑦川上	4	1	1
⑧宮下	4	0	0
②川淵志	3	1	1
⑥吉村	2	1	0
①浜崎	3	1	1
③川淵英	3	0	0
⑨西崎	3	0	0
④道津	3	1	0
⑤川淵勝	3	0	0

28 5 3

【箱崎】打安点

⑦浜口	2	0	0
④川上	2	1	0
①大村	3	1	0
⑧真鍋	3	0	0
⑨市岡	3	0	0
⑤丸尾	3	1	0
②加藤	3	0	0
⑥吉木	1	0	0
H高下	1	0	0
③深見	2	0	0

23 3 0

【親和】打安点

④岩崎	2	0	0
⑧古川	3	0	0
②黒石	2	1	1
⑦川崎	3	0	0
⑨宮添	3	1	0
③久住呂	2	1	0
⑤宮田	2	0	0
5竹山	1	0	0
①佐々田	3	0	0
⑥与那嶺	3	0	0
24 3 1			

全田平、金星逃がす 親銀ヒヤ汗1点守り抜く

【二回戦】◇三菱◇ 1時間30分 振球犠盗失残併

親和銀行	100	000	0	1	4	3	0	4	1	5	0
全田平	000	000	0	0	7	1	0	0	0	4	0

【評】少ないチャンスをものにした親和銀行が初回の1点を守り抜き全田平に辛勝した。親和の初回は一死三塁から黒石が左中間三塁打し貴重な1点を叩き出した。しかし二回以降は散発2安打で、持ち前の機動力野球も精彩を欠き追加点は奪えずじまいだった。

全田平打線も五回を除き毎回の7三振と不発。柴山と嶋田の投手陣が好投しただけに惜しい金星を逃がした。田平は7回目の県選手権で勝ち星は56年の電源開発(西彼)と57年の健友クラブ(島原)戦の2個。

【全田平】打安点

⑧橋口	3	0	0
④6阿比留	3	0	0
⑥1嶋田	3	1	0
⑦3稲沢	3	0	0
③4島本	2	0	0
4田川	0	0	0
H中村	0	0	0
⑩17柴山	3	1	0
②中倉	3	0	0
⑨山内	1	0	0
9本多	1	0	0
⑤下田	2	0	0
24 2 0			

大会二日目は9日、大橋球場で準々決勝4試合を行ない、三菱重工が平戸クラブに対し思わぬ苦戦となったが4-2の逆転で逃げ切った。長崎無線局は見事な機動力野球をみせて島原市役所に6-0で快勝。電源

開発は上五島ブローズを五回コールドの7-0で下した。最終試合の親和銀行-県経済連は0-0で八回から一死満塁制。親和が一気に3点を挙げ競り勝った。
(昭和60年11月10日付けの長崎新聞より抜粋)

平戸ク、先制むなし 三菱重工長崎ヒヤリ

【準々決勝】 1時間28分 振球犠盗失残併

平戸クラブ	020	000	0	2	3	3	2	0	4	5	0
三菱重工長崎	000	013	X	4	0	2	2	2	0	6	1

【評】前回の覇者・三菱重工長崎が平戸クラブに苦戦。相手守備陣の乱れについて辛くも逆転勝ちした。

先制したのは平戸。二回に四球走者二人を山下が手堅く送り一死二三塁。8番作元の中前打で二者が還った。その後も毎回走者を出すなど終始、平戸ペース。しかし内野陣の守備の乱れが命取りとなった。

三菱は五回、連続敵失などで無死満塁。9番上内の犠飛で1点差とし、六回にも敵失絡みで一死一二塁。この好機に7番・田中が同点打。続く前田の2点二塁打で4-2と逆転。好投した平戸のエース井手口の前に冷や汗の勝利だった。

平戸クラブは12年前の48年23回大会の一回戦で6連覇中の三菱重工を4-3で倒して本大会での初勝利。ところが2年後の準決勝で対して0-2の敗戦。52年も二回戦で対して1-3の敗戦。平戸クラブとなって県選手権は14度目の出場だが、白星を挙げたのは3大会で3個目。

【平戸】打安点

⑤正木	4	1	0
⑦近藤	2	1	0
③古川	2	0	0
④増本	3	0	0
⑧宮田	2	2	0
⑨森田	2	0	0
⑥山下	2	0	0
②作元	2	1	2
H大畑	1	0	0
①井手口	3	0	0
23 5 2			

【三菱】打安点

⑥本多	4	0	0
④桜木	2	1	0
⑧高岡	3	0	0
1有田	0	0	0
⑤川上	3	0	0
③宇都	2	0	0
⑦井上	3	1	0
②田中	3	1	1
⑩18前田	2	1	2
⑨上内	2	0	1
24 4 4			

長崎無線局10盗塁 島原市役所に快勝

【無線局】打安点

⑧田村	2	1	0
⑤永江	3	2	1
⑨1岩永	3	0	0
④岩井	2	1	2
①大石	3	1	1
9折元	1	0	0
②富高	3	1	1
③池田	3	2	0
⑥四方	4	0	0
⑦西村	2	0	0
26 8 5			

【準々決勝】 1時間41分 振球犠盗失残併

NTT長崎無線局	300	201	0	6	1	8	1	10	0	8	0
島原市役所	000	000	0	0	3	7	0	0	0	6	1

【評】1番田村が4盗塁するなど10盗塁という機動力を発揮した長崎無線局が快勝した。初回の長崎無線は主軸の岩井、大石の連打と富高の犠打で3点を先取りいきなり主導権を握った。四回には三走の田村が三本間に挟まれながらも6点目のホームインシダメ押し点。

島原打線は沈黙。放った安打は四回に吉田の右前打のみ。7四球で走者を出しながら、ここ一発が出ず完封負けを喫した。

島原市役所は、島原・南高地区が分離する前は有明クラブが地区予選敗退の合間に4度の出場があるが、4度目の55年に挙げた1勝のみ。島原単独となった4年目に、5回目の出場を果たして両目が開いた。

【島原】打安点

⑦鍬取	3	0	0
⑤6森本	2	0	0
⑥4北田	2	0	0
③1成瀬	2	0	0
⑩15吉田	3	1	0
⑨松本	2	0	0
H下田	1	0	0
④3安永	2	0	0
②兼元	2	0	0
⑧島田	1	0	0
20 1 0			

電源開発
コールド勝ち

【準々決勝】	1時間4分	振球犠盗失残併							
上五島ブローズ	000 00	0	2	2	2	2	0	1	0
電源開発	000 7X	7	1	6	2	2	0	4	0

(5回コールド)

【評】電源開発が四回に一举7点を挙げてコールド勝ちした。二、三回に連続好機を迎えながらあと一押しがなかった電源だったが、四回は梶岡の安打を足場に一死後3連続四球で押し出しの先制点。その後、松村の右中間2点二塁打、村田のスライズの際の相手投手のボーンヘッドや坂口の安打に栗原の四球が続いて再び打席が回ってきた梶岡が走者一掃の左越え二塁打して大会3回目の出場ですベスト4入りを決定付けた。

上五島は頼みの浜崎がこれではどうしようもなかったが、打線も放った安打は1本で、3回目出場ですコールド敗戦は初めての事。

【二】松村
梶岡

【上五島】	打安点
⑦川上	1 0 0
⑧宮下	1 0 0
②川渕恵	2 0 0
⑥吉村	2 0 0
①浜崎	2 1 0
③川渕英	2 0 0
⑨西崎	1 0 0
④道津	0 0 0
⑤川渕勝	1 0 0
	12 1 0

【電源】	打安点
⑥村田	1 0 1
⑤坂口	3 2 0
①栗原	2 0 0
②梶岡	3 3 3
⑨梅野	1 0 0
⑧梅田	1 0 0
③広兼	1 0 0
⑦金氏	1 0 0
H日浦	0 0 1
R4井坂	0 0 0
④7松村	2 1 2

15 6 7

親和銀行(国体準優勝)タジタジ 経済連あと一步 延長8回 力尽きる

【親和】	打安点
④岩崎	3 0 0
⑧古川	3 1 0
③2黒石	2 0 0
⑦川崎	3 0 0
⑨宮添	3 0 0
②松尾	0 0 0
H3辻	2 0 0
3久住呂	0 0 0
⑤竹山	2 0 0
①宮本	1 0 0
1高藤	1 1 0
⑥与那嶺	1 0 0
	21 2 0

【準々決勝】	1時間36分	振球犠盗失残併							
親和銀行	000 000 03	3	5	1	1	0	1	2	2
長崎県経済連	000 000 00	0	3	0	1	0	1	5	1

(延長8回は一死満塁制)

【評】経済連は頭腦的ミスが命取りとなって掌中のタマを逃がした。両軍投手の好投で0-0のまま特別規程の一死満塁制となった延長八回の親銀は黒石が空振り三振の際に与那嶺を三本間に挟んだが本塁寄りに追って生かしたのが残念なプレー。川崎に左中間二塁打(参考記録)の追い打ちをかけられる結果となった。

それまではむしろ経済連が押し気味。エース早川がストレートに伸びがありカーブの切れもよかった。六回先頭の高藤に三塁打された唯一のピンチも冷静に打ち取り親和投手陣を上回るで

き。攻めても宮本と高藤から6安打を放つなど国体準優勝もタジタジの形。経済連は八回の深追いと、五回一死二三塁のチャンスでスライズ失敗で逃がしたのが惜しかった。

選手権に初登場の経済連だったがこの年の西日本1部大会(長崎県が会場)で2勝してベスト8。翌年A級昇格すると天皇賜杯の県代表となった。その後の活躍ぶりは順次、記していく。



6回表親和一死三塁岩崎の投ゴロを一塁送球の間に高藤本塁を突くが寸前で憤死(捕手は富永)

【経済連】	打安点
⑤岩崎	3 1 0
④山口	2 0 0
③白石	3 0 0
②富永	3 1 0
①早川	3 0 0
⑨白水	3 1 0
⑦野口	3 2 0
⑦尾崎	2 0 0
7中田	1 0 0
⑧佐藤	2 1 0
	25 6 0

三菱重工が主導権

【準決勝】	1時間32分	振球犠盗失残併							
NTT長崎無線局	100 000 0	1	0	6	0	?	1	4	0
三菱重工長崎	102 000 X	3	1	6	1	2	1	5	0

【評】前年度決勝戦で対戦した両チーム。先攻の長崎無線が先制した。先頭の高藤が四球、二死となる間に二三盗し四球の岩井と試みた重盗は捕→遊→捕の好返球に刺されるかに見えたが捕手の落球で生還した。だがその後は小林の速球に打線は鳴りを潜めたまま、四回一死一三塁もスライズ失敗で実らなかった。

1点を追う重工は四球の桜木を高岡の中越え三塁打で還して同点。三回に先頭から連続四球、バントを間に四球で一死満塁。川上の投ゴロ失や井上の押し出し四球で2点を加えた。初回も四球が絡んだがこの三回は無線・大石の乱調がひどかった。

両軍合わせて安打は三菱・高岡の1本だけ。両軍投手の好投というより貧打線といえる。得点はすべて四球が絡んでいる。

【三】高岡

【無線局】	打安点
⑧田村	1 0 0
4神野	0 0 0
⑤永江	2 0 0
①岩井	3 0 0
④8岩井	1 0 0
②富高	3 0 0
③池田	2 0 0
⑨折元	3 0 0
⑥四方	3 0 0
⑦西村	2 0 0
	20 0 0

【三菱】	打安点
⑧前田	2 0 0
④桜木	1 0 0
③高岡	2 0 1
⑤6川上	3 0 1
②5田中	3 0 0
⑦井上	1 0 1
⑨上内	2 0 0
H2奥藪	1 0 0
①小林	3 0 0
⑥4本多	1 0 0
	19 1 3

【親和】打安点

④岩崎	3	1	0
⑧古川	3	1	1
②黒石	3	1	0
⑦川崎	3	0	0
⑨宮添	3	0	2
③久住呂	2	0	0
⑤竹山	3	1	2
5宮田	0	0	0
①佐々田	2	1	0
⑥与那嶺	3	1	0
			25 6 5

親和銀行 コールド勝ち

【準決勝】 1時間26分 振球犠盗失残併

親和銀行	402 001	7	1	2	0	10	0	3	0
電源開発	000 000	0	7	1	0	0	3	0	0

【評】持ち前の機動力をフルに発揮した親和銀行が佐々田のノーヒットピッチングの好投もあって六回コールド勝ちした。

親和は初回安打の岩崎が二盗。古川と黒石のあたりは平凡な三ゴロだったが一塁への連続悪送球で労せず2点。さらに宮添の投ゴロでスタートしていた黒石が本塁に還り、竹山の安打で宮添も還って4点をもぎとった。三回にも黒石、宮添が同じようにして点を加え、六回の1点も四球の久住呂が二三盗して遊ゴロで生還している。走者の足が速いこともあるが打者も叩きつけるバッティングを身につけているから出きることである。

この大量点を背に親和の佐々田は速球と切れのよいカーブで電源打線に乗ずるスキを与えず、四球走者を一人のみに完封した。

【電源】打安点

⑥村田	2	0	0
⑤坂口	2	0	0
①栗原	2	0	0
②梶岡	2	0	0
⑨梅野	2	0	0
⑧梅田	2	0	0
③広兼	1	0	0
⑦金氏	1	0	0
2日浦	1	0	0
④松村	2	0	0
			17 0 0

【三菱】打安点

⑧前田	3	0	0
④本多	4	0	0
③高岡	4	0	0
⑥川上	4	0	0
⑦井上	3	1	0
②奥菌	3	0	0
⑤田中	3	0	0
①有田	3	1	0
⑨上内	3	1	0
			30 3 0

親和銀行 4度目の王座 2年ぶり

初回の1点守る

三菱重工長崎
マト絞れず散発

【決勝戦】 1時間33分 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	000 000 000	0	4	1	2	0	0	6	0
親和銀行	100 000 000	1	6	0	1	1	2	2	0

【評】初回の親和銀行は安打の岩崎が古川のバントで二進。黒石が投手の足もとを抜くタイムリー打を放って迎え入れる鮮やかなものだった。

三菱重工の左腕・有田は二回にも久住呂に二塁打を浴びるなど滑り出しはよくなかったが、次第に球威を増して三回以降は六回に安打の走者を一人出したただけだった。それだけに打線のバックアップがあれば...と思われたが、その打線は親和の下手投げのエース高藤の巧みなピッチングにマトが絞れず3安打を散発したのみでシャットアウトに甘んじた。

三菱にとって惜しまれるのは安打の上内をバントで送った二死二塁で、本多の二塁頭上を抜くかと思われた当たりが岩崎の美技に阻まれ、同点にできなかったことだが、今大会の4試合を通じてクリーンアップトリオの打力不振は目を覆うばかり。これが決勝戦でも親和との差になった。



2年ぶり4度目優勝の親和銀行チーム

【親和】打安点

④岩崎	3	2	0
⑧古川	2	0	0
②黒石	3	1	1
⑦川崎	3	0	0
⑨宮添	3	0	0
③久住呂	3	1	0
⑤竹山	3	0	0
①高藤	3	0	0
⑥与那嶺	3	0	0
			26 4 1

昭和60年に開催された県大会、九州大会、全国大会の結果 ①

天皇賜杯第40回全日本・県予選 (6/1~佐世保)
 (長崎)重工、信農連 (佐世保)親和、海自造修所 (諫早)信金
 (大村)市役所 (島原)安中ク (平戸)平戸ク (福江)ビクトリー
 (松浦)御厨ク (東彼)田川スリッカーズ (西彼)大島造船所
 (南高)有明町ク (北高)轟ク (県北)全江迎 (上五島)奈良尾船団
 (壱岐)勝本北星 17チーム参加

第40回鳥取国体・県予選 (7/21~福江)
 (長崎)重工、信連 (佐世保)親和、海自造修 (諫早)日本冷熱
 (大村)市役所 (島原)市役所 (福江)球友会、ビクトリー
 (松浦)中興化成 (東彼)東芝セブ (南高)有明 (北高)小長井
 (県北)全田平 (上五島)上五島ク 15チーム参加

天皇賜杯第40回全日本軟式野球大会 8/16~・熊本県
 【一】親和銀行 2-0 富士電機東京工場(東京A)
 【二】" 2-0 東京アルプス古川(宮城)
 【三】" 6-5 南幌町役場(北海道南)
 【準々】" 2-5 佐久総合病院(長野)

第40回国民体育大会 10/21~・鳥取県
 【一】親和銀行 4-0 日本たばこ金沢(石川)
 【二】" 8-0 NTT徳島(徳島)
 【準々】" 4-0 佐藤薬品工業(奈良)
 【準】" 3-2 ライト工業(東京)
 【決】" 0-5 三洋電機鳥取(鳥取)

昭和60年に開催された県大会、九州大会、全国大会の結果 ②

第7回西日本1部・県予選 (3/30～・大村)

(長崎)経済連 (佐世保)その美ク (諫早)諫早ク (大村)市役所 (島原)市役所 (平戸)島ク (松浦)今福メツ (福江)三井楽ク (東彼)波佐見陶球ク (西彼)池島鉱業所 (南高)ロノ津ヤンガース (北高)小長井ク (県北)全田平 (上五島)ブローズ (14チーム)

第7回西日本2部・県予選 (5/18～・県北)

(長崎)機関区 (佐世保)闘将ク (諫早)日本冷熱 (大村)管友ク (島原)健友ク (平戸)電々 (福江)市農協 (松浦)松浦ク (東彼)波佐見センターズ (西彼)大瀬戸ク(南高)新栄ク(北高)飯盛ク (県北)生月体協(上五島)立串ク(壱岐)郷ノ浦ヤンキース (15チーム)

第7回西日本軟式野球大会〈1部〉 5/11～・長崎県

長崎市と諫早市で開催されたため県から3チームが参加

- 諫早クラブ【二】 3-2 広島銀行(広島)
- 【準々】 1-0 チャレンジャーズ(島根)
- 【準】 2-1 川澄化学(大分)
- 【決】 2-1 日本たばこ都城(宮崎)

長崎県経済連【一】 6-2 ニチデン機械(滋賀)

- 【二】 4-1 佐賀米商(佐賀)
- 【準々】 0-7 日本たばこ都城(宮崎)

上五島ブローズ【一】 4-1 ことぶき倶楽部(兵庫)

- 【二】 5-0 ボーイズ(和歌山)
- 【準々】 0-7 守口門真消防組合(大阪)

第7回西日本軟式野球大会〈2部〉 7/6～・愛媛県

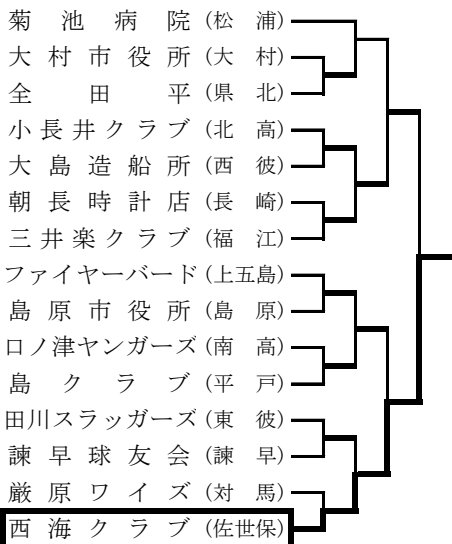
生月体協【二】 2-3 脇町体協(徳島)

第8回九州連合会長杯・県予選 (4/13～・島原)

(長崎)日野、重工 (佐世保)親和、海自造修所 (諫早)無線局 (福江)球友会、ビクトリー (平戸)平戸ク (松浦)御厨ク (東彼)波佐見鴻ノ巣ク (南高)有明町ク (北高)轟ク (上五島)上五島ク 優勝=親和銀行

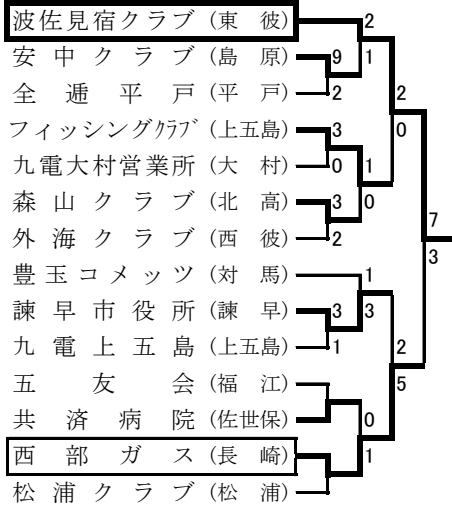
高松宮賜杯第29回1部・県予選

4/27～・大村



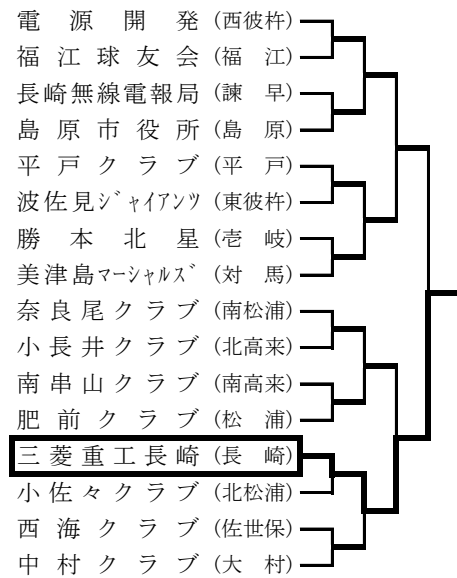
高松宮賜杯第29回2部・県予選

7/7～・上五島



第37回長崎県民体育大会

11/2～・諫早



九州ブロック(熊本)で敗退

九州ブロック(大分)で敗退